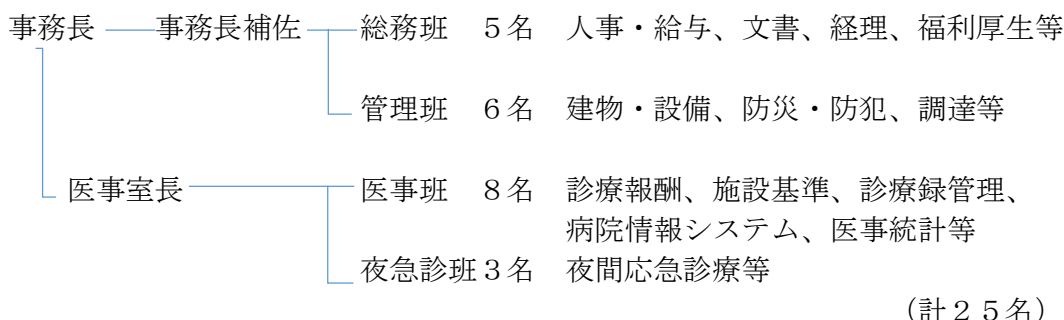


1 部門目標

- (1) 病院機能の強化
- (2) 施設環境の改善
- (3) 収支の改善（経費節減の徹底）

2 業務体制・スタッフ



3 業務実績

(1) 救急医療の充実（救急科の体制強化／救急搬送困難事例の受入協力）

千葉県消防局救急隊出動地域における傷病者の搬送困難事例の解消のための「受入確保基準対象医療機関」として、平成30年8月から協力している。

令和元年度から開設した救急科は令和3年度から常勤医師2名体制となり、専攻医等も含め体制を充実強化した結果、前年度の約1,300件を上回る1,600件の救急搬送を受け入れた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により搬送先が決まらない救急搬送困難事例も積極的に受け入れ、病院全体で5,300件を超える救急搬送を受け入れた。

(2) 新型コロナウイルス感染症の対応

新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、令和3年度は約290人の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。市民はもとより、千葉県調整本部と連携し、市外、特に医療提供体制が逼迫している東葛地域からの受入れも積極的に行うとともに、保健所の要請に応じて、発熱・陽性者の外来やクラスターが発生した施設のPCR検査・診察等、多岐にわたる新型コロナウイルス感染症への対応を行った。

PCR検査については、全ての新規入院患者のスクリーニングも含め、約9,000件実施するなど、徹底した感染防止対策を行うことで、院内でクラスターを発生させることなく、市民に求められる救急医療や重症患者への診療を止めることなく実施した。

(3) 心臓血管外科診療の再開

県内に不足する成人先天性心疾患の診療を提供するため、周辺医療機関との差別化や役割分担についての検討、関係医療機関との調整を終え、令和2年5月から心臓血管外科診療を再開した。

(4) 臨床研修医及び学生の臨床実習の受入れについて

地域における医療水準の向上及び医師の資質の向上を図るため、前年度に引き続き、基幹型臨床研修病院として、卒後臨床研修医6名と、千葉大学医学部附属病院を基幹型とする協力型臨床研修病院として卒後臨床研修医2名を受け入れるとともに、後期臨床研修医14名を受け入れた。

また、看護学校等から学生の臨床実習も受け入れているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、原則受け入れを停止したことから、例年に比べ受入数が少なくなった。

(5) 施設環境の改善

開院後38年が経過し、給排水設備、電気設備、空調設備の劣化・老朽化が著しいことから、大規模な改修が必要な状態となっている。

毎年度、計画的に改修工事を実施しており、令和3年度は新型コロナウイルス感染症患者の受入れ増加により昨年度延期していた、経年劣化が著しい病棟系統外空調設備改修工事を実施した。これにより経年劣化対応の計画的な大規模修繕は一通り完了することとなり、以降は新病院開院まで随時の応急的な修繕で対応して行く予定である。

4 1年間の総括

当院は、県より新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定されており、令和3年度も前年度に引き続き、感染疑い患者の検査、陽性者外来や発熱外来の実施、中等症から重症、小児や周産期母子に至るまでの幅広い入院受け入れに努めた結果。入院患者数は昨年度を59人上回り、小児が65人、成人が217人、合計282人を受け入れました。また、市医療衛生部の依頼により市民のコロナワクチン接種にも協力することとなり、高齢者や基礎疾患を有するかかりつけ患者を中心に、延べ4,155人に接種を行いました。

患者数の状況については、入院患者数が延べ68,192人(1日平均187人)で前年度比6,349人(1日平均17人)の増、外来患者数は121,887人(1日平均490人)で前年度比8,521人(1日平均35人)の増となりました。

収益に関しては、事業収益が10,918,082千円で前年度比12.4%(1,207,459千円)の大幅な増収となりました。このうち、医業収益は、患者数が前年度を上回ったことにより、7,413,473千円で、前年度比16.6%(1,058,124千円)の大幅な増収となりました。事業費用は9,506,825千円で、給与費や材料費が患者数の増に伴い増えたことにより、前年度比3.0%(278,934千円)の増額となりました。これらの結果、事業収益と事業費用の差し引きで、1,411,257千円の純利益が生じました。

5 今後の目標

(1) 院内感染対策の充実と感染症患者受入れ体制の強化

通常診療や救急医療を維持しながら、新型コロナウイルス感染症患者の入院・外来診療、新型コロナウイルスワクチン接種事業を継続するため、更なる院内感染対策の充実と感染症患者受入れ体制の強化を図る。

(2) 高齢者医療の充実

高齢者医療に必要な呼吸器系診療科や整形外科、がん診療体制の強化を図るとともに救急科の受け入れ体制を強化する。また、地域包括ケアシステムの推進に貢献するため、高齢者に対する多様な症状や疾患への初期対応ができる総合医(ホスピタリスト)の育成や在宅診療体制の充実を図る。

(3) 周産期医療の充実

出生数は減少傾向にあるものの、高齢出産の増加等を背景としたハイリスク分娩や、低出生体重児

等のハイリスク新生児に対応するため、引き続き周産期医療の人材育成に努めるとともに新生児外科系疾患治療体制の強化に取り組む。